

地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	香川県	事業実施主体	小豆島町	地域再生計画名	「未来の元気な小豆島にむけてのみなとづくり計画」
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	香川県土木部港湾課長、香川県農政水産部水産課長、小豆島町建設課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標の達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	目標1	目標2	基準年度	R元	年度	中間実績	基準年度	R元		指標総数	達成数		
	観光客数の維持		107万人	R元	107万人	R4	83万人	107万人	R6	×	2	1	中間目標値を107万人下回っているが、コロナ禍による一時的な観光客数の減少であり、回復傾向にあり、目標達成の見込みである。
	竹生漁港の漁業従事者数の維持		12人	R元	12人	R4	12人	12人	R6	○	2	1	順調に漁業従事者数を維持できており、目標達成の見込みである。
②事業の進捗状況	事業名			整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
特別措置を適用して行う事業	港湾施設整備事業（坂手浮棧橋整備）			計画	中間年度（R4）	最終実績見込み	計画に対し、進捗率は100%であり、整備は完了した。						
	港湾施設整備事業（草壁浮棧橋整備）			浮棧橋整備N=1式	浮棧橋整備N=1式	浮棧橋整備N=1式	計画に対し、事業費から見る進捗率は30%であり、順調に整備は進んでいる。引き続き、計画に則した整備を目指していく。						
	港湾施設整備事業（芦浦岸壁整備）			岸壁防食工L=54.3m	岸壁防食工L=0m	岸壁防食工L=54.3m	計画に対し、進捗率は0%であるが、R5～R6に整備を予定している。						
	港湾施設整備事業（草壁岸壁整備）			防眩材整備N=4基	防眩材整備N=0基	防眩材整備N=0基	新型コロナウイルス流行等の影響を受けたことにより、草壁岸壁を利用していたフェリー会社の経営が悪化し、草壁高松航路が休止になったため、内海港の草壁岸壁については整備を取りやめる。今後は、瀬戸内国際芸術祭等のソフト事業を継続、新たに地域内循環バスの実証実験等を実施しながら、交流人口を確保し、参入する航路事業者を待つ。						
	漁港施設整備事業（防波堤整備）			防波堤整備L=70m	防波堤整備L=70m	防波堤整備L=70m	計画に対し、事業費から見る進捗率は90%であり、順調に整備は進んでいる。引き続き、計画に則した整備を目指していく。						
その他の事業	瀬戸内国際芸術祭			「海の復権」をテーマに小豆島の魅力を世界に向けて発信するイベント			2010年から3年に1度開催しているが、2022年も開催し、多数の作品を展示している。						
	オーリーブマラソン全国大会			地域一体で運営し、5,000人のランナーに魅力を発信するイベント			コロナ禍により令和2～4年は中止となったが、令和5年から再開している。						
	クルーズ船誘致事業			クルーズ船の誘致、歓迎行事により、小豆島をイメージアップする観光振興事業			クルーズ船の誘致、歓迎行事を継続的に行っている。						
	漁業振興協議会による普及事業			水産業を活性化させる事業			コロナ禍により中止になった行事があったものの、水産出前事業、漁業体験、漁業者向けの研修会、おさかな絵画コンクール等を実施している。						
	オーリーブトップワンプロジェクト			小豆島オーリーブのブランド力の向上する事業			オーリーブ出前授業や収穫体験、少量オーリーブ果実採油事業等、島内外へ向けたオーリーブの情報や魅力発信、オーリーブ苗木のプレゼント等を継続して実施している。						
計画外で独自に実施した事業	該当なし												
③評価方法	香川県公共事業評価委員会を開催し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。												
④中間評価の公表方法	インターネット（小豆島町のホームページ）等の利用により公表												
⑤計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地方創生港整備推進交付金を活用した港湾と漁港の一体的な整備の中で、老朽化した施設の整備による施設の延命化、防波堤の新設による船舶の安全な係留場所の確保が可能となることから、来島する観光客の維持、観光客への水産特産品の安定供給や神戸・高松方面への水産物の安定的な出荷が期待され、島の観光業や水産業の振興を図るものである。中間年度では、コロナ禍の影響により、観光客数は一時的に減少しているが、回復傾向にある。また、漁業従事者数は維持できている。3年に1度開催の「瀬戸内国際芸術祭」やコロナ禍で中止されていた「オーリーブマラソン全国大会」の再開や漁業振興協議会による普及事業等のソフト対策を行うことにより、目標達成を目指していく。												
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況						有りの場合その具体的内容						
	地域再生計画の見直し（有・無）						新型コロナウイルス流行等の影響を受けたことにより、草壁岸壁を利用していたフェリー会社の経営が悪化し、草壁高松航路が休止になったため、内海港の草壁岸壁については整備を取りやめる。今後は、瀬戸内国際芸術祭等のソフト事業を継続、新たに地域内循環バスの実証実験等を実施しながら、交流人口を確保し、参入する航路事業者を待つ。						
	令和6年度交付金要望額への反映（有・無）						有りの場合の増減額 △32,500千円						
⑦今後の方針等に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ●内海港1岸壁削除に伴う整備事業量、事業費の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・整備事業量 認定時 防眩材N=4基→防眩材N=0基 [4基減] ・令和6年度の事業費 現認定計画 150,000千円→見直し後85,000千円 [65,000千円（うち交付金32,500千円）減] ・総事業費 現認定計画 668,000千円→見直し後603,000千円 [65,000千円（うち中間評価結果を反映した削減額65,000千円）（うち交付金32,500千円）減] 												